



第1回 2022年度 物構研コロキウム

4月18日
16:00～

オンライン開催

クライオ電子顕微鏡単粒子解析効を奏するとき

When Cryo-Electron Microscopy Single-Particle Analysis Works

クライオ電子顕微鏡単粒子解析がポピュラーな構造解析手法として広く行き渡るようになり、3Å, 2Å 台の分解能のマップが頻繁に得られるようになってきた。このような最新かつスタンダードとも言うべき成果というより、クライオ電子顕微鏡単粒子解析だからこそ可能だった構造解析を中心にその成果を紹介する。一つは鏡像異性体の関係にある二つの構造が混合した試料の解析、もう一つは、天然から精製した微量で不安定な光センサータンパク質の構造解析である。また、ホスホケトラーゼを例にマルチコンフォーマを示すことに成功した例を紹介する。あわせて生存ダイナミクス研究センターに設置されたクライオ電子顕微鏡と運営体制を紹介する。一方、我々の研究室は希少がんの一つである滑膜肉腫発生機構の解明とそれに対する創薬に取り組んでいる。その現状も紹介する。



講演者

岩崎 憲治先生

筑波大学

生存ダイナミクス研究センター・教授

日程

4月18日(月) 16:00～
オンライン開催 (Zoom)

お申し
込み先

<https://pf-form.kek.jp/imss-seminar/>



KEK 会議セミナー

